

☆☆総合診療専門研修プログラム 研修目標及び研修の場

☆☆総合診療専門研修プログラムでの研修設定 ◎:主たる研修の場 ○:従たる研修の場
推奨 ◎:主たる研修の場、○:研修可能な場)

	総合診療専門研修 I (診療所/中小病院)		総合診療専門研修 II (病院総合診療部門)		内科		小児科		救急科		他の領域別研修	
I. 一般的な症候及び疾患への評価及び治療に必要な診察及び検査・治療手技 <small>以下に示す検査・治療手技のうち、※印の項目は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。</small>	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨	設定	推奨
(ア) 身体診察												
※①小児の一般的身体診察及び乳幼児の発達スクリーニング診察を実施できる。	◎	◎	◎					◎				
※②成人患者への身体診察（直腸、前立腺、陰茎、精巣、鼠径、乳房、筋骨格系、神経系、皮膚を含む）を実施できる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○
※③高齢患者への高齢者機能評価を目的とした身体診察（歩行機能、転倒・骨折リスク評価など）や認知機能検査（HDS-R、MMSEなど）を実施できる。	◎	◎	◎	◎	○	○						
※④耳鏡・鼻鏡・眼底鏡による診察を実施できる。	◎	◎	◎	◎								○
※⑤死亡診断を実施し、死亡診断書を作成できる。	◎	◎	◎	◎	○	○				○		
⑥死体検案を警察担当者とともに実施し、死体検案書を作成できる。	◎	◎	○	○						◎		
(イ) 実施すべき手技												
※①各種の採血法（静脈血・動脈血）、簡易機器による血液検査・簡易血糖測定・簡易凝固能検査	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※②採尿法（導尿法を含む）	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※③注射法（皮内・皮下・筋肉・静脈内・点滴・成人及び小児静脈確保法、中心静脈確保法）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
※④穿刺法（腰椎・膝関節・肩関節・胸腔・腹腔・骨髄を含む）	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
(ウ) 検査の適応の判断と結果の解釈が必要な検査												
※①単純X線検査（胸部・腹部・KUB・骨格系を中心）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎		
※②心電図検査・ホルター心電図検査・負荷心電図検査	◎	◎	◎	◎	◎	○			◎	○		
※③超音波検査（腹部・表在・心臓、下肢静脈）	◎	◎	◎	◎	◎	○			◎	○		
※④生体標本（喀痰、尿、皮膚等）に対する顕微鏡的診断	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○		
※⑤呼吸機能検査	◎	◎	◎	◎	◎	○						
※⑥オージオメトリーによる聴力評価及び視力検査表による視力評価	◎	◎									◎	○
⑦消化管内視鏡（上部）	○	○	○	○	○	○	○					
⑧消化管内視鏡（下部）	○	○	○	○	○	○	○					
⑨造影検査（胃透視、注腸透視、DIP）	○	○	○	○	○	○	○					
※⑩頭・頸・胸部単純CT、腹部単純・造影CT	○		◎	◎	◎	○	○	○	○	○		
⑪頭部MRI/MRA			◎	◎	◎	○	○	○	○	○		
(エ) 救急処置												
※①新生児、幼児、小児の心肺蘇生法（PALS）	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○		
※②成人心肺蘇生法（ICLSまたはACLS）または内科救急・ICLS講習会（JMECC）	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
※③外傷救急（JATEC）									◎	○		
(オ) 薬物治療												
※①使用頻度の多い薬剤の副作用・相互作用・形状・薬価・保険適応を理解して処方することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○		
※②適切な処方箋を記載し発行できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
※③処方・調剤方法の工夫ができる。	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
※④調剤薬局との連携ができる。	◎	◎	○	○	○	○		○	○			
⑤麻薬管理ができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○					
(カ) 治療法												
※①簡単な切開・異物摘出・ドレナージ	◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※②止血・縫合法及び閉鎖療法	◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※③簡単な脱臼の整復	◎	◎	○	○				○	○	○	○	○
※④局所麻酔（手指のブロック注射を含む）	◎	◎	○	○					◎	◎	○	○
※⑤トリガーポイント注射	◎	◎	○	○							○	○
※⑥関節注射（膝関節・肩関節等）	◎	◎	○	○							○	○
※⑦静脈ルート確保および輸液管理（IVHを含む）	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○		
※⑧経鼻胃管及びイレウス管の挿入と管理	◎	◎	◎	◎	○	○	○		○	○		
※⑨胃瘻カテーテルの交換と管理	◎	◎	○	○	○	○	○					
※⑩導尿及び尿道留置カテーテル・膀胱瘻カテーテルの留置及び交換	◎	◎	◎	◎	○	○	○		○	○		
※⑪褥瘻に対する被覆治療及びデブリードマン	◎	◎	◎	◎							○	○
※⑫在宅酸素療法の導入と管理	◎	◎	○	○	○	○	○					
※⑬人工呼吸器の導入と管理	○	○	○	○	○	○	○		◎	◎		
⑭輸血法（血液型・交差適合試験の判定や在宅輸血のガイドラインを含む）	○	○	○	○	○	○	○					
⑮各種ブロック注射（仙骨硬膜外ブロック・正中神経ブロック等）	○	○	○	○							○	○
⑯小手術（局所麻酔下での簡単な切開・摘出・止血・縫合法）	◎	○	○	○	○				◎	◎		

※⑦包帯・テーピング・副木・ギブス等による固定法	○	○	○	○				○	○	○	○
⑧穿刺法（胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髓穿刺等）		○		○	○	○	○	○	○	○	
※⑨鼻出血の一時的止血	○	○						○	○	○	○
※⑩耳垢除去、外耳道異物除去	○	○					○	○		○	○
⑪咽喉頭異物の除去（間接喉頭鏡、上部消化管内視鏡などを使用）	○	○						○	○	○	○
⑫睫毛抜去	○	○							○	○	
II. 一般的な症候への適切な対応と問題解決 以下に示す症候すべてにおいて、臨床推論に基づく鑑別診断および、初期対応（他の専門医へのコンサルテーションを含む）を適切に実施できる。	設定	推奨	設定								
ショック	○	○	○	○	○	○		○	○		
急性中毒	○	○	○	○	○	○		○	○		
意識障害	○	○	○	○	○	○		○	○		
疲労・全身倦怠感	○	○	○	○	○	○		○	○		
心肺停止	○	○	○	○	○	○		○	○		
呼吸困難	○	○	○	○	○	○		○	○		
身体機能の低下	○	○	○	○							
不眠	○	○	○	○							
食欲不振	○	○	○	○							
体重減少・るいそう	○	○	○	○							
体重増加・肥満	○	○	○	○							
浮腫	○	○	○	○							
リンパ節腫脹	○	○	○	○			○				
発疹	○	○	○	○			○	○	○	○	
黄疸	○	○	○	○			○				
発熱	○	○	○	○			○	○	○	○	
認知能の障害	○	○	○	○							
頭痛	○	○	○	○			○	○	○	○	
めまい	○	○	○	○			○	○	○	○	
失神	○	○	○	○			○		○	○	
言語障害	○	○	○	○							
けいれん発作	○	○	○	○			○	○	○	○	
視力障害・視野狭窄	○	○						○	○	○	○
目の充血	○	○					○	○		○	○
聴力障害・耳痛	○	○					○	○		○	○
鼻漏・鼻閉	○	○					○	○		○	○
鼻出血	○	○						○	○	○	○
さ声	○	○							○		○
胸痛	○	○	○	○				○	○		
動悸	○	○	○	○				○	○		
咳・痰	○	○	○	○			○	○	○		
咽頭痛	○	○	○	○			○	○	○		
誤嚥	○	○	○	○			○	○	○		
誤飲	○	○					○	○	○		
嚥下困難	○	○	○	○			○	○	○	○	
吐血・下血	○	○	○	○			○	○	○		
嘔気・嘔吐	○	○	○	○			○	○	○		
胸やけ	○	○	○	○			○	○			
腹痛	○	○	○	○			○	○	○		
便通異常	○	○	○	○			○	○			
肛門・会陰部痛	○	○	○	○							
熱傷	○	○	○	○			○	○	○	○	
外傷	○	○							○		
褥瘡	○	○	○	○						○	
背部痛	○	○	○	○						○	
腰痛	○	○	○	○						○	
関節痛	○	○	○	○						○	
歩行障害	○	○	○	○						○	
四肢のしびれ	○	○	○	○						○	
肉眼的血尿	○	○	○	○						○	
排尿障害（尿失禁・排尿困難）	○	○	○	○						○	
乏尿・尿閉	○	○	○	○				○	○	○	
多尿	○	○	○	○					○		
不安	○	○	○	○					○		
気分の障害（うつ）	○	○	○	○					○		
興奮								○	○		
女性特有の訴え・症状	○	○	○						○		
妊娠の訴え・症状	○	○	○	○			○	○	○	○	
成長・発達の障害	○	○					○	○			
III. 一般的な疾患・病態に対する適切なマネジメント 以下に示す一般的な疾患・病態について、必要に応じて他の専門医・医療職と連携をとりながら、適切なマネジメントができる。また、（ ）内は主たる疾患であるが、例示である。 ※印の疾患・病態群は90%以上の経験が必須だが、それ以外についてもできる限り経験することが望ましい。											
(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患											
※[1]貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
[2]白血病					○	○					
[3]悪性リンパ腫				○		○					
[4]出血傾向・紫斑病				○	○	○		○	○		
(2) 神經系疾患											
※[1]脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）	○	○	○	○	○	○		○	○		○
※[2]脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）	○	○						○	○		○
※[3]変性疾患（パーキンソン病）	○	○	○	○	○	○					
※[4]脳炎・髄膜炎				○	○	○		○	○		
※[5]一次性頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）	○	○	○	○	○	○	○	○			
(3) 皮膚系疾患											
※[1]湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、皮脂欠乏性皮膚炎）	○	○	○	○			○	○		○	○
※[2]荨麻疹	○	○					○	○	○	○	○
※[3]薬疹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
※[4]皮膚感染症（伝染性膿瘍症、蜂窩織炎、白癬症、カンジダ症、尋常性ざ瘡、感染性粉瘤、伝染性軟臍腫、疥癬）	○	○	○	○			○	○		○	○
(4) 運動器（筋骨格）系疾患											
※[1]骨折（脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折、橈骨骨折）	○	○						○	○		○
※[2]関節・靭帯の損傷及び障害（変形性関節症、捻挫、肘内障、腱板炎）	○	○						○	○		○
※[3]骨粗鬆症	○	○	○	○	○	○					○

※[4]脊柱障害（腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）	◎	◎	●		●	●	●	●	●	●	●	●
(5) 循環器系疾患												
※[1]心不全	◎	◎	●	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●
※[2]狭心症、心筋梗塞	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
[3]心筋症												
※[4]不整脈（心房細動、房室ブロック）	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
[5]弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
※[6]動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
※[7]静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
※[8]高血圧症（本性、二次性）	○	○	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●
(6) 呼吸器系疾患												
※[1]呼吸不全（在宅酸素療法含む）	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[2]呼吸器感染症（急性上気道炎、気管支炎、肺炎）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[3]閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患、塵肺）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[4]肺循環障害（肺塞栓、肺梗塞）				●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[5]異常呼吸（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[6]胸膜・縫隔・横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[7]肺癌	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(7) 消化器系疾患												
※[1]食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎、逆流性食道炎）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[2]小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻、過敏性腸症候群、憩室炎、大腸癌）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[3]胆囊・胆管疾患（胆石、胆囊炎、胆管炎）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[4]肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[5]膀胱疾患（急性・慢性膀胱炎）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[6]横隔膜・腹壁・腹膜疾患（腹膜炎、急性腹症、鼠径ヘルニア）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(8) 腎・尿路系（液体・電解質バランスを含む）疾患												
※[1]腎不全（急性・慢性腎不全、透析）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[2]原発性糸球体腎疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[3]全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[4]泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症、過活動膀胱）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(9) 妊娠分娩と生殖器疾患												
[1]妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、産褥）												●
※[2]妊婦・授乳婦・褥婦のケア（妊婦・授乳婦への投薬、乳腺炎）	○	○										●
※[3]女性生殖器及びその関連疾患（月経異常（無月経を含む）、不正性器出血、更年期障害、外陰・腔・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍）	○	○										●
※[4]男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害）	○	○	●	●								●
(10) 内分泌・栄養・代謝系疾患												
[1]視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）				●								
※[2]甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[3]副腎不全				●								
※[4]糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[5]脂質異常症	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[6]蛋白及び核酸代謝異常（高尿酸血症）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(11) 眼・視覚系疾患												
[1]屈折異常（近視、遠視、乱視）	○	○										●
※[2]角結膜炎（アレルギー性結膜炎）	○	○										●
[3]白内障	○	○										●
[4]緑内障	○	○								●	●	●
[5]糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化												●
(12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患												
※[1]中耳炎	○	○						●	●	●	●	●
※[2]急性・慢性副鼻腔炎	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[3]アレルギー性鼻炎	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[4]咽頭炎（扁桃炎、扁桃周囲膿瘍）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[5]外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物	○	○						●	●	●	●	●
(13) 精神・神経系疾患												
[1]症状精神病	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[2]認知症（アルツハイマー型、血管型）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[3]依存症（アルコール依存、ニコチン依存）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[4]うつ病	○	○	●	●								
[5]統合失調症	○	○	●	●								
※[6]不安障害（パニック障害）	○	○	●	●					●	●	●	●
※[7]身体症状症（身体表現性障害）、適応障害	○	○	●	●						●	●	●
※[8]不眠症	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(14) 感染症												
※[1]ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎、HIV）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[2]細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[3]結核							●	●				
[4]真菌感染症	○	○						●	●			●
[5]性感染症	○	○						●	●	●	●	●
[6]寄生虫疾患							●	●	●	●	●	
(15) 免疫・アレルギー疾患												
※[1]膠原病とその合併症（関節リウマチ、SLE、リウマチ性多発筋痛症、シェーグレン症候群）	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
[2]アレルギー疾患	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※[3]アナフィラキシー	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
(16) 物理・化学的因素による疾患												
※[1]中毒（アルコール、薬物）				●	●	●	●	●	●	●	●	
[2]環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）				●	●	●	●	●	●	●	●	
※[3]熱傷	○	○							●	●	●	●
(17) 小児疾患												
[1]小兒けいれん性疾患								●	●	●	●	
※[2]小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ、RS、ロタ）	○	○						●	●	●	●	
※[3]小児細菌感染症	○	○						●	●	●	●	
※[4]小児喘息												

(2)各種の居宅介護サービスおよび施設介護サービスについて、患者・家族に説明し、その適応を判断	◎	◎	○	○							
(3)ケアカンファレンスにおいて、必要な場合には進行役を担い、医師の立場から適切にアドバイスを提供	◎	◎	○	○							
(4)グループホーム、老健施設、特別養護老人ホームなどの施設入居者の日常的な健康管理を実施	◎	◎	○	○							
(5)施設入居者の急性期の対応と入院適応の判断を、医療機関と連携して実施	◎	◎	○	○							
V 保健事業・予防医療 以下に示すケアや活動を適切に提供・実践することができる。											
(1)特定健康診査の事後指導	◎	◎	◎	◎							
(2)特定保健指導への協力	◎	◎	◎	◎							
(3)各種がん検診での要精査者に対する説明と指導	◎	◎	◎	◎							
(4)保育所、幼稚園、小学校、中学校において、健診や教育などの保健活動に協力	◎	◎	○	○							
(5)産業保健活動に協力	◎	◎	○	○							
(6)健康教室（高血圧教室・糖尿病教室など）の企画・運営に協力	◎	◎	○	○							